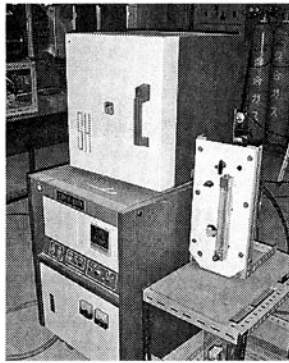




もみ殻炭使い水素貯蔵

ヒューズ・テクノが材料開発へ

長岡技科大と 燃料電池施設などに



実験プラントから生産能力を大幅に引き上げる

産業機械メーカーのヒューズ・テクノネット(東京都八王子市、津田欣範社長)と長岡技術科学大(新潟県長岡市)は2010年3月までに、次世代エネルギーの水素を効率よく出し入れできる新型貯蔵材料を共同開発する。産業廃棄物である稲のもみ殻炭から超微細の穴がある活性炭を大量に合成する。水素貯蔵プラントや燃料電池を開発する自動車、化学メーカーなどに売り込む。

もみ殻を燃やしてできる炭の表面にあるシリカ層をアルカリ液で溶かし、炭の内部にある超微細な穴を表面に露出させる。穴の直径は従来の活性炭を利したエネルギー貯蔵材料の約5分の1にあたる1・1ナ(ナは10億分の1)と、水素を出し入れするうえで最も適した構造にする。穴の内部を含めた炭1g当たりの表面積は従来の2倍の2000平方メートル以上で、大量の水素を貯蔵、放出できるといふ。

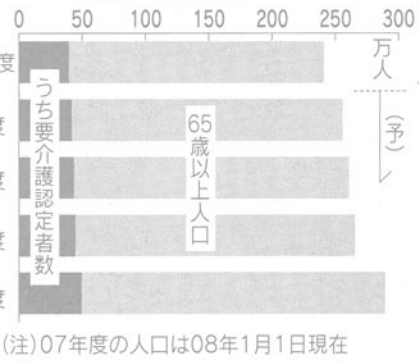
都政データ

09都議選

東京都内では団塊世代が高齢期に入る2015年には4人に1人が65歳以上になる。特に1人暮らしの高齢者が急速に増え、地域や施設による介護の需要は急

高齢者介護

都内の高齢者数



高齢者介護に関する各党の主張

医療療養病床、特別養護老人ホームを充実、介護サービスの人材育成を支援
病院間連携で円滑な転院を支援、介護施設などの定員を15万7000人に
医療療養病床、特別養護老人ホームを各7000人分増設、整備促進へ助成拡大
特別養護老人ホーム、療養型病床を各1万人分、老人保健施設を8000人分増設
療養型施設やグループホームを増設
地域密着の小規模多機能施設を充実

議選政策集から

整備、具体策が課題

一方、多摩地区は2・26%と整備が進んでおり、地域差が大きい。介護施設に入るため住み慣れた地域を離れる高齢者も多く、23区内から多摩地区や都外の施設に入所した高齢者は少なくとも1万2000人以上に上る。

東京都内では、武蔵野赤十字病院は産婦人科休日や時間外救急外来の医療体制を維持し、母子や胎児へのリスクが高い妊娠や出産に対し高度な新生児医療を提供することなどを規定。同病院の富田博樹院長は「周産期医療を取り巻く環境は厳しく支援はありがたい。今後武蔵野市民を支えていきたい」と話した。

武蔵野市、500万円助成

武蔵野赤十字病院に 周産期医療を支援

今年度

東京都武蔵野市は8日制の確保を狙い、武蔵野赤十字病院と医師の人材を結んだ。産婦人科医や

若者の自立を支援する特定非営利活動法人(NPO法人)「育て上げ」ネット(東京都立川市、工藤啓理理事長)は今年中に、着なくなったスーツを若者の就職活動に活用する事業を始める。家庭が経済的に困窮するなど理由で、就職活動の際に着るスーツが無い若者が少なくないという。ス

不用スーツ集め 「就活にどうぞ」

NPO「育て上げ」ネット

「育て上げ」ネットの活動に就かず職業訓練も受けない「ニート」と呼ばれる若者の増加を防止する。レンタル料は原則無料とする。寄付を受け付けるスーツやネクタイ、ベルトは15〜39歳の男女が着る、準備段階で就職を希望する若者を支援したいという。色やグレイのシングルス

若者に無料レンタル

「育て上げ」ネットは「スーツを着ていないと参加できない就職セミナーもある。スーツを無料に貸し出す仕組みを作りたい」と話した。今後は、同病院の富田博樹院長は「周産期医療を取り巻く環境は厳しく支援はありがたい。今後武蔵野市民を支えていきたい」と話した。

NICU(新生児特定集中治療室)担当医と同病院の産科関連医師の宿直手当として、2009年度に500万円を助成する。10年度以降の財政支援も検討する。

覚書では、武蔵野赤十字病院は産婦人科休日や時間外救急外来の医療体制を維持し、母子や胎児へのリスクが高い妊娠や出産に対し高度な新生児医療を提供することなどを規定。同病院の富田博樹院長は「周産期医療を取り巻く環境は厳しく支援はありがたい。今後武蔵野市民を支えていきたい」と話した。